

★ Alumnae

★ Alumnae 「アルムネー」はラテン語で「女子卒業生」という意味です。★

今の「時」を生きる

今年(2025年)はカトリック教会では聖年となっています。旧約の時代には50年たつとすべての貸し借りを帳消しにして新しい歩みを始めるといった優れた約束事があり、ヨベルの年と言われました。富の格差が激しくなっている現代では、心に響くものがあります。今は神のもとに立ち返るという意味で、50年、25年の聖年が決められています。心を新たに、共に生きる世界に目を向け、新しい歩みを始めると言えます。この時代に生きて今感じることは地球存在の危機です。

現代の地球の危機的な状況を示すものとして、人類が地質や生態系に与えた影響に注目して提案されている「人新生」(アントロポセン)という言葉があります。多くの領域に関わる言葉ですが、その中で新たな地質年代として注目されている点に驚きを感じています。それは世界の地質を調べると1953年に一本の線が地球上のどの地点を観測しても同じ印、プルトニウムが見られるのです。各地での核実験の結果でした。それ以後プラスチックなどが見られ、まさに人間が土壌に負の影響を与えたのです。私たち一人ひとりへの警告でもあります。

大学にとっては閉学という驚くことが起きました。この激変していく世界にあっても、私たちの人生は進んで行きます。この時思い起こすのは聖書の言葉です。

何事にも時があり

天の下の出来事にはすべて定められた時がある。

生まれる時、死ぬ時…

破壊する時、建てる時

泣く時、笑う時

嘆く時、踊る時…

求める時、失う時

保つ時、放つ時…

黙する時、語る時

愛する時、憎む時

戦いの時、平和の時

コヘレト(3の1-8)



同窓会顧問
岡村 祥子

海星の大学が閉学になることは、存在していたものが消えることであり、喪失の痛みを感じる時ですが、変化していきます。それはここで教育を受け、貴重な宝を心に刻まれた卒業生が他者に伝えていく時になることです。見えていた大学は終わりますが、目に見えない海星の精神が卒業生を通して人々に受け継がれていきます。「真理と愛」に生き、他者に仕える精神は次の世代に刻まれていきます。他者を尊敬し、隣人に目を向け、ケアを重視し、ともに生きる世界の実現のための歩みとなります。

海の星マリアはいつも私たちと共にいて、希望をもって歩むよう行く手を示してください。在学している学生たちを支え、その学びをあたたく応援してもいきたいと思います。